

経済・金融 フラッシュ

ロシアの物価状況(22年8月) —前月比では3か月連続のマイナス

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 総合指数は前月比マイナス、コア指数は前月比でゼロ成長

9月9日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(22年8月)】

- ・前年同月比は14.30%、市場予想¹(14.30%)と同じで、前月(15.10%)から低下(図表1)
- ・前月比は▲0.52%、予想(▲0.50%)を下回り、前月(▲0.39%)からマイナス幅が拡大した

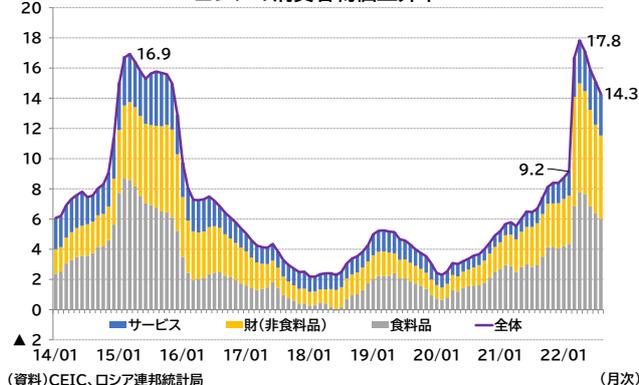
【コア指数²(22年8月)】

- ・前年同月比は17.71%、予想(17.50%)を下回り、前月(18.40%)から低下(図表2)
- ・前月比は0.00%、予想(▲0.18%)を上回り、前月(▲0.18%)のマイナスから脱した

(図表1)

(前年同月比、%)

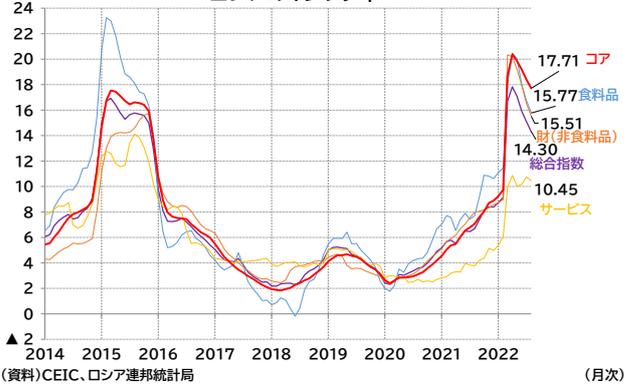
ロシアの消費者物価上昇率



(図表2)

(前年比、%)

ロシアのインフレ率



2. 結果の詳細: 前月比は3か月連続のマイナス

8月のロシアのインフレ率は前年比で14.30%となり、7月の15.10%から低下した。

大分類別に見ると、食料品が前年比で4月のピーク(20.48%)から8月には15.77%まで低下、財(非食料品)が3月のピーク(20.34%)から8月には15.51%まで低下している。一方、サービスは3月以降の高止まりが続いており、ピークは4月(10.87%)であるが、8月(10.45%)もほぼ4月と同程度の伸び率となっている。

コア指数は前年比で3月18.69%→4月20.37%→5月19.87%→6月19.18%→7月18.40%→8月17.71%と推移しており、4月をピークに減速が続いているものの、伸び率は依然として15年の

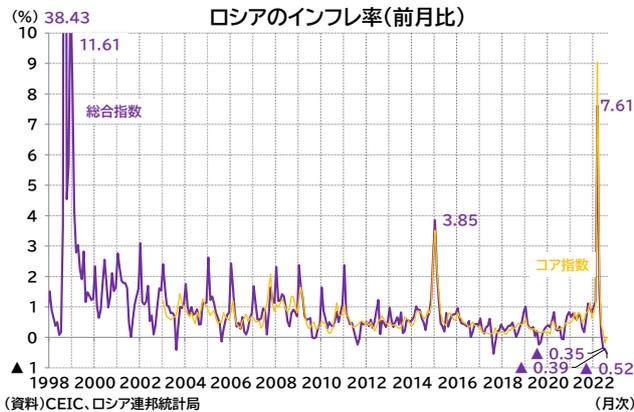
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

ピーク（15年3月の17.53%）は上回っている。

前月比では、総合指数が▲0.52%（7月▲0.39%、6月▲0.35%）となり3か月連続のマイナスとなったが、コア指数は8月に0.00%（7月▲0.18%、6月0.18%）となり、物価水準としては横ばい推移となった（図表3）。

（図表3）

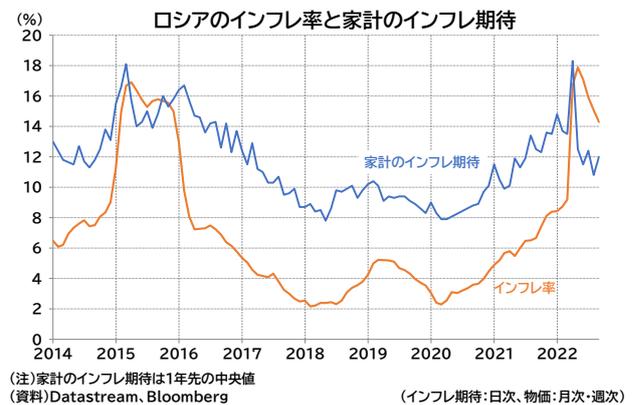


（図表4）



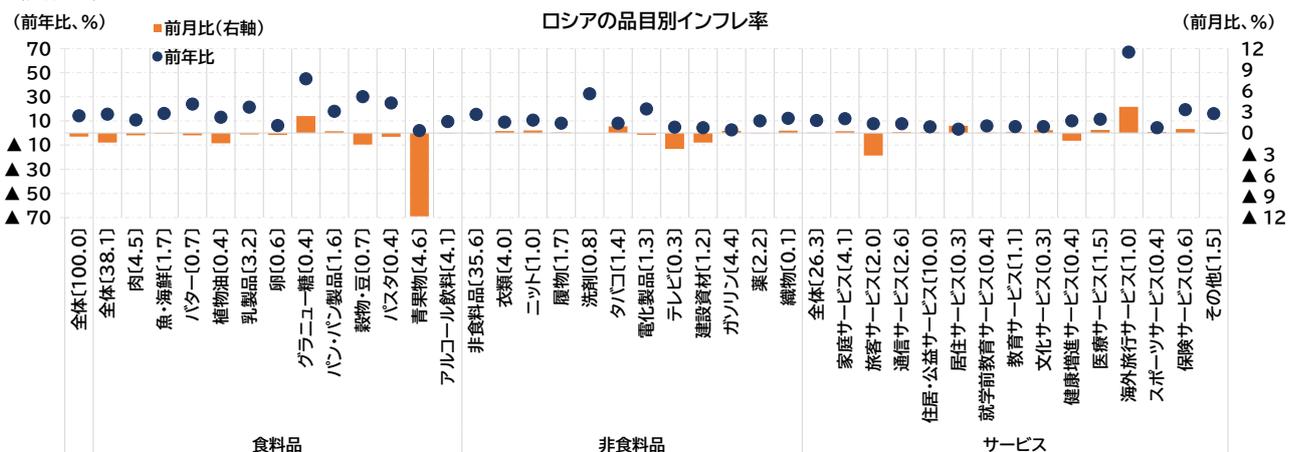
別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、前週比上昇では、5月下旬からゼロもしくはマイナスとなる時期が続いている。足もと9月5日時点では前週比▲0.13%で9週連続のマイナスとなっている（図表4）。

（図表5）



また、ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は8月には12.0%となった（7月は10.8%）。期待インフレ率は3月（18.3%）をピークに急速に低下したが、足もとでは横ばい圏での推移となっている（図表5）。

（図表6）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、□内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

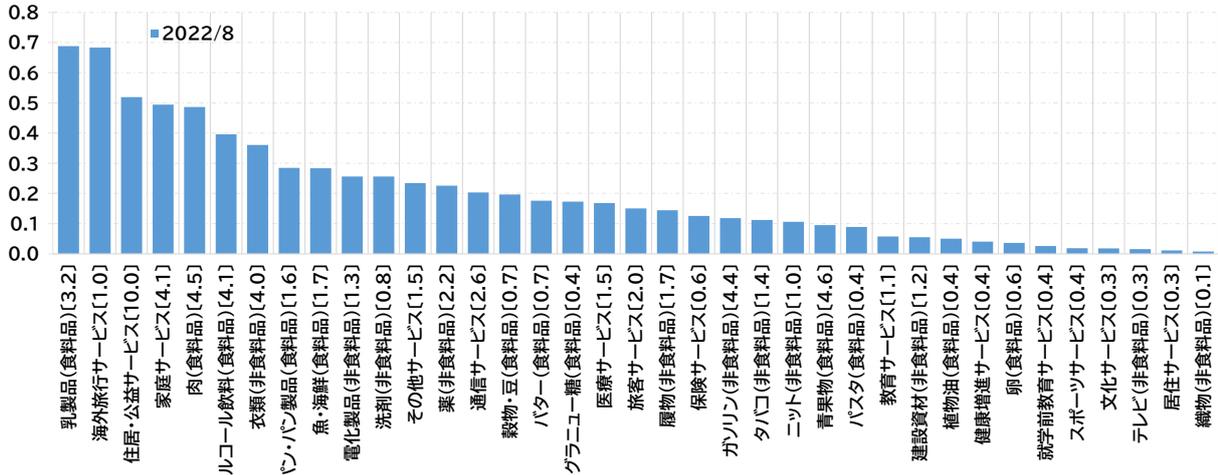
品目別の上昇率では³（図表 6）、8 月は前年比で海外旅行サービス（67.11%）、グラニュー糖（45.04%）、洗剤（32.60%）、穀物・豆（30.16%）の上昇率が高い。

前月比では、青果物（▲11.82%）、旅客サービス（▲3.21%）、テレビ（▲2.26%）、穀物・豆（▲1.64%）、海外旅行サービス（3.72%）、グラニュー糖（2.42%）の上昇率が高かった。全体の上昇率は前月比でマイナスとなったが、個別品目では上昇した財・サービスも少なくない。

（図表 7）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度、抜粋）

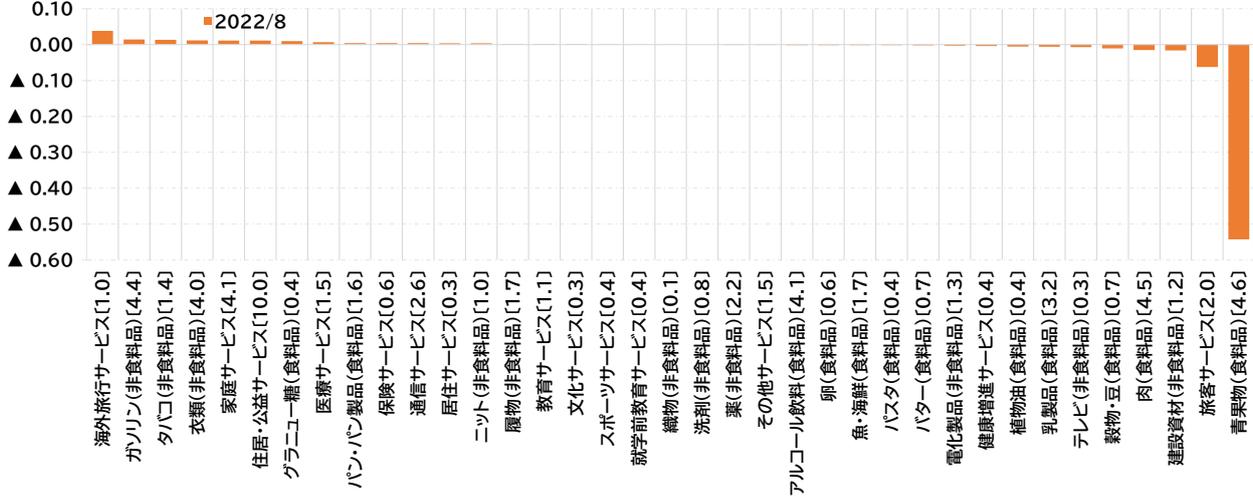


（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 8）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度、抜粋）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

各品目の消費ウエイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表 7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は乳製品（0.7%ポイント）、海外旅行サービス（0.7%ポイント）、住居・公益サービス（0.5%ポイント）、家庭サービス（0.5%ポイント）、肉（0.5%ポイント）

³ 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。

となった。前月比上昇率の寄与は、大きく押し上げた財・サービスがない一方で、青果物（▲0.5%ポイント）が6月、7月に続き大幅マイナスとなったほか、8月は旅客サービス（▲0.1%ポイント）も下落要因として目立った。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保证するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。